

ハマダイ（チビキ）の標識放流調査

平成29年5月31日 水産技術開発センター

マチ類広域資源管理の対象となっているハマダイの回遊生態を調べるため、5月18～19日に、沖永良部島の北東沖でハマダイ7尾（33～50 cm）に黄色のダート型標識を2本装着して放流しました。

水深約200-250mで漁獲される屋久島沖に比べ、沖永良部島沖は漁獲水深が約250-300mと深いため、生きた状態で釣り上げ、活力を回復させて再び海に戻す作業は容易ではありません。しかし、今回、過去3年間で最多となる7尾の放流に成功しました。年々放流技術が向上しているものと思われます。今後もハマダイの生態解明のため、同様の調査を継続して参ります。



エア抜き作業

〔 漁獲した魚は浮き袋が膨らんでいるので
注射器で空気を抜きます。 〕



胃反転戻し作業

〔 浮き袋が膨らんで押し出された胃を
体内に押し戻します。 〕



尾叉長測定および標識装着



標識を装着したハマダイの放流状況